

地域再生に企業は何が出来るか

中山間地域フォーラム4周年記念シンポジウム

去る7月4日、東京大学弥生講堂(東京)に於いて、中山間地域フォーラム4周年記念シンポジウムが開催された。農政ジャーナリスト村田泰夫氏の企業による農業参入、地元企業の地域おこし、CSRによる支援活動等の問題提起に始まり、「地域再生に企業は何が出来るか」企業の事例報告として、アストラゼネカ㈱の「高齢化する村を応援するプロジェクト」、静岡県農地局の「一社一村静岡運動」報告があった。また㈱じょうえつ東京農大の活動、キリンホールディングス㈱相談役荒蒔康一郎氏、当社上杉社長のミニ講演があった。



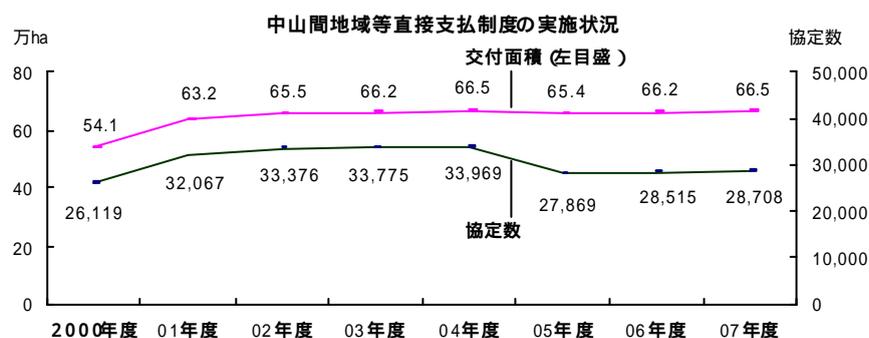
中山間地域は美しい景観や自然には恵ま

れているが、地形・消費地へのアクセス等、農業をするには必ずしも好条件を備えてはいない。全国で過疎化や農家の高齢化と共に、耕作放棄が進み(65歳以上が70%以上を占める)限界集落が消滅の危機に瀕している。

心に安らぎを与えてくれる棚田・里地は、生態系の保全機能や歴史的文化遗产としてしての価値が今見直され、企業や都会の若者が中山間地域と連携し交流する機運が高まり、行政もこれを支援し始めている。『中山間地等直接支払制度』～同制度は中山間地域の課題解決の為に、急傾斜地等条件不利な農用地において5年以上継続して行われる農業生産活動に直接支払が行われている。同制度の活用は、2007年までに28,708協定が地域集落と締結し、対象となる農用地の8割に当たる66.5万haの農用地で実施され、耕作放棄の発生の抑制等一定の効果を上げている。

中山間地域は、食料生産や自然環境や国土保全など多面的で公益的な役割を果たしている。いま、その多くの地域でコミュニティ機能の低下で「消滅」の危機に直面している集落も少なくない。「中山間地域フォーラム」は、さまざまな分野の専門家や経験豊かな実務家で構成する産・学・民・官のゆるやかなネットワークである。研究会開催・地域支援・政策提言を活動の三本柱にして、中山間地域の再生をめざしている。

中山間地域は国土の7割。国土面積の72%、農業戸数、経営耕地面積の4割、農産物の販売金額の3割を占める重要な農業生産地域(出展:2005年農業センサス)。全国の約2割の市町村で今後集落消滅の可能性がある。(国土交通省2004年)



年一回一日休業、アストラゼネカ全従業員 3000 人の活動

医療用医薬品を研究、開発、製造、販売しているグローバル医薬品会社“アストラゼネカ”の社会貢献活動を紹介する。2006年から年に一日会社を休業し、全従業員 3000人による 農山村も社員も元気になる活動を目指して、高齢化・過疎化・孤立化する全国の棚田地区など中山間地域を訪問し、農作業や環境保全の手伝い、高齢者の健康維持に役立つ“アストラゼネカ・オリジナル体操”や餅つき、バーベキュー - 等の交流活動を通じた高齢者の方々の暮らしを応援する活動を続けている。同社は、企業も『良き企業市民』として地域に貢献するのは当然で、そうした社会責任を果たさない企業は生き残れないという、コーポレート・シチズンシップによる活動をアピールした。

そして、当社上杉社長が、限界集落活性化の事例として京都府丹波町の限界集落と都会を結ぶ『ふるさと野菜のおすそ分け通信』(有)篠ファームの活動を紹介した。高齢者が自家用に栽培した「安心安全」の野菜を2週間に一回、または月一回都会の参加者(会員)に届ける。限界集落と都会とをつなぐ、モノの交流から、心と心の交流、人的交流に発展させ、疲弊してきた地域の活性を行っている。農業そのものを知っているのは農家であるが、肥料商の役割としてその農業を資源として活かすために知恵と人材を提供できるのではないかと。キリンホールディングス(株)相談役の荒蒔康一郎氏が、不利な点(欠点)をマイナス材料と考えず、不利な点を他にはない材料(資源)と考える逆転の発想が必要と、企業の知恵と若い人材を積極的に取り込むことを薦めた。

九州トモ工会開催

大いに盛り上がったサッカーの世界カップ/南アフリカ大会、日本も決勝トーナメント進出でサッカー一色となる中、6月23日~24日に九州トモ工会が開催された。九州トモ工会はエムシー・ファーターコム(株)いわき工場製品としては後発地区であった九州での拡販及び会員相互の親睦、発展を目的として昨年秋に設立された。その後、製品研修会や歴史のある全関西トモ工肥料販売協同組合との合同研修会を行い、今回は千葉県/宮本商事(株)、エムシー・ファーターコム(株)いわき工場を訪問した。



宮本商事(株)では(有)斎忠商店/斎藤社長よりいわき工場品の販売事例そして熱い思いを披露して頂き、また宮本社長はじめ社員の方々との情報や意見を交換しあった。同夜は佐原名物の鰻に舌鼓を打ち、翌日はエムシー・ファーターコム(株)いわき工場を訪問して、工場見学と第二回総会を実施した。二日間を通じて、いわき工場品の機能性、特殊性と携わる方々の思いを目のあたりにして、改めて肥料商の底力を垣間見ることも出来た。万来屋物産(株)、(株)宇佐屋、(株)児藤商店、及びエムシー・ファーターコム、当社会員一同、更なる飛躍を誓い合って散会となった。尚、今回は宮崎県(資)菊池商店も出席予定であったが春先からの口蹄疫の為に残念ながら欠席となった、一日も早い終息を願っている。ちなみに、本会が開催された24日早朝は冒頭のワールドカップにおける運命のデンマーク戦、前日の疲れと深酒とで寝ぼけ眼での観戦。翌日の移動中のご想像の通り。(福岡支店 塚原)

ついに終わってしまったワールドカップ。前評判とは裏腹に、善戦した日本チームに頭が上がらなかつた方も少なくないと思います。前号でご紹介した、サッカー通り商店街の勝敗予想。この結果に的中者は極わずか?!と思いきや、なんと19名もの方が的中させていました。全員がチームの為、日本の1勝の為に戦う心が伝わってくる、今までにない素晴らしいチームでしたね。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp